

令和6年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月30日(水)

会 場:栗屋コミュニティセンター

参加者数:11人

参加者の発言	市の発言	備考
イノシシやシカが異常に増えている。これまでは米の中身を食べていたが、最近 は稲穂まで食べる。電柵や電線も効果がないことから、駆除するしかない。米作り をやめる方も出てきている。山の管理をしないことが一つの原因であり、山中に草 が生えていないため、道路脇の雑草を食べる。畑の作物については、囲むと対策 になるが、田んぼは広く、駆除をお願いするしかない。クマやサルも出てくる。	鳥獣対策については各地から要望が出ている。柵を設置する際の一部補助や、 駆除班と連携した駆除、ICTを活用した対策など、地域の皆さんなどと連携した取 組の結果、捕獲頭数は年々増えてきている。しかし、イノシシやシカの個体数が異 常に増えている。引き続き、駆除がさらに進むように連携していく。あらゆる地域 で、鳥獣被害が課題となっており、広島県が民間会社に委託して、鳥獣の専門的 な人材育成を行い、それぞれの市町に人材を派遣する事業を進めている。広島 弁の「てごする」という言葉をもじった「tegos」という組織である。広島県とも連携 しながら、引き続き、鳥獣対策を強化していきたい。	
旧三江線代替バスについて、栗屋、長谷、馬行谷の3つの停留所に待合所を検 討してほしい。広島県北部建設事務所に相談すると、市から申請があれば検討を するという回答を受けた。バスが遅れることもあり、降雨時などのために、待合所 がほしい。長谷については、地域で利用しないことから、栗屋と馬行谷に設けてい ただきたい。	旧三江線の代替バスの停留所について、昨年のまちづくりトークでも屋根付きの 待合所をつくってほしいという要望をいただいている。建設用地の問題や利用状 況などを踏まえての判断が必要と考えている。改めて、広島県の考えなどを踏ま えて、意見交換をさせていただきたい。	【発言者へ回答】 3停留所の現地を確認した。設置 工事に通常より費用がかかるこ とが見込まれることや、利用状況 を鑑みても待合所の設置は困難 と回答。
栗屋駅には、三江線の廃線後、多くの人が見に来る。栗屋駅前には市に借りていた だき、駐車場にしている。ホームの待合所では、写真などを展示しているが、ホー ムに上がる階段に立入禁止の看板がある。来られた方が気にされるので、ホーム まで借りていただければ、立入禁止の看板を取ることができ、来訪者もホームまで 出ることができる。階段の両側には、スイセンを植えており、とても綺麗である。 SNSにも掲載しており、様々な問い合わせも入っている。駅舎は歴史資産として残 してほしい。	旧三江線の栗屋駅周辺の用地については、地域の皆さんと相談させていただき ながら、必要な部分について借用の手続きを取っている。今も、3年間の契約で JRから駅前用地等を借用している。駅舎については、JRが将来的に解体する方 針もあり、借用していない。立入禁止看板の工夫なども含めて、今後検討してい く。	
市立三次中央病院の建替えについて、個室化すると価格が上がるのではないの か。先日、手術した際は、相部屋であり、その後個室に移動した。手術直後は、個 室が良く、その後相部屋に移る方がいいのではないか。	コロナ禍以降、新病院を建設するケースでは、個室化が進んでいる。コロナ禍で は、多床室が多いことが災いして、院内クラスターが発生したが、コロナ禍以降 も、インフルエンザはもちろんのこと、新興感染症も出てくるかもしれないこと から、完全個室化が基本になっていくと考えている。その中で、個室料金については、一 律金額の個室だけを考えておらず、リーズナブルな個室からもっと高い個室まで、 いくつかの料金設定をしていきたい。人と話をしたい、あるいは、高齢者の皆さん などの中には、独りだと認知が進むことから、誰かと一緒に居たいなどの意見もい ただいている。今の設計段階では、壁が自由に動くことにより多床室になるなどの 工夫も検討している。	
獣害について、農作物被害はすごい。狩猟免許を取ったが、資格取得に2万円か かった。また、毎年、罾にも費用が掛かる。庄原市は捕獲報奨金が高いが、三次 は1頭2、500円であり、報奨金を高くしてほしい。	捕獲奨励金は2、500円であり、周辺自治体と比べると安い。他の経費補助を 含めると、同額程度の支援になる。しかし、検討すべき事項でもあり、今後の参考 にさせていただく。狩猟免許の助成金も一人当たり2万円以内であり、箱罾の助 成金やジビエの活用事業に対する補助金もある。今後、専門家と駆除に関する取 組について協議を行い、農業従事者に農業被害額が減ったと言ってももらえるよう に頑張っていきたい。それぞれの地域で、どのような被害が出ているのか、去年と 比べてどのような状況かなどの情報をいただくことが重要である。サルやイノ シシ、シカ以外にも、クマの目撃情報をニュースなどで頻繁に耳にするようになって いる。市内でも、クマの目撃情報が増えていることから、情報提供をしていただ きたい。	
箱罾を貸していただいても、管理する人がおらず、錆びて使わなくなったものもあ る。設置後の管理に経費がかかり、もったいないので、精査してほしい。	情報提供いただき感謝する。地域を見ると、箱罾の放置が目立つことから、利活 用も含めたあり方について検討していきたい。	
特定河川の計画では、米丸地域を調整池として、上流の堤防を直していく工事を されると聞いた。平成30年の洪水時は、米丸地域へ行く道路が浸水して、交通遮 断された。旧栗屋西小学校前の道路も冠水した。河川や道路の予算と抱き合わ せて、県道の浸水を解消してほしい。	米丸地域では、一時的に水を溜めるための事業調整をしている。具体的には、う どん屋があった箇所の堤防を整備する。また、国道54号などの主要幹線道路が 通行止めになると、孤立集落が出る。あるいは物流に障害が出るなど、生活面や 経済面に大きな影響が出ることから、国土交通大臣に直接、市内の主な被害箇 所について提案した。河川改修と合わせて国道54号についても改善されると聞い ている。平成30年の西日本豪雨災害の時には、県道の冠水場所を確認してい る。具体的な対策をするにあたっては、国が積極的に動くことが必要である。災害 が頻発化している、あるいは激甚化している状況を見て、国は河川の土砂を撤去 されている。河川の土砂を撤去するだけで、河川断面が増え、市民の皆さんの安 心材料になることから、全国の自治体が連携して、防災・減災に資する予算をしつ かりと確保するように要請している。その結果、国は、来年度に最終年度を迎える 「国土強靱化5か年計画」についても、今年度、具体的な計画を作り、令和8年度 以降についても財源措置をする方針としている。栗屋地区にある県道の冠水道路 や、作木地区の国道375号線で冠水する5箇所も含めて、市では、冠水する道路 や重要な道路について把握していることから、引き続き、県や国と連携して、課題 解決に向かって取り組んでいきたい。	